

金澤北ロータリークラブ



題名：道化(油彩)

吉田富士夫 (よしだ ふじお) 昭和4年～平成13年 / 1929～2001

金沢市に生まれる。県立工業学校図案科卒、宮本三郎に師事。

1954～1956、スペイン・ピタソア磁器会社・招聘。1957、ポルトガル・ピスタアングレ磁器会社・招聘。1975、フランス美術賞展 アカデミー・デ・ボザール賞1位。1976、スペイン美術賞展 グランプリ。1980、二紀展 文部大臣賞。1988、北國文化賞。1992、金沢市文化賞。二紀会評議員、二紀会北陸支部長。石川県美術文化協会副理事長を務める。

吉田富士夫先生を悼む

二塚長生

死ねば無になる。無なるがゆえ故人を語ろうとするときつい。悲しみが込み上げてくる。

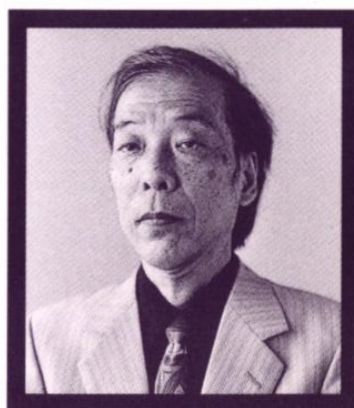
五月二十日、薫風爽やかな季節の最中に先生は此の世をさりました。洋画家としての七十年余の生涯でした。

先生はアカデミックが主流の石川県内の画壇にあっては珍しく内面を掘り下げる幻想的な画風を築き上げ、確かな描写力と美しいマチエールは師 宮本三郎の薫陶を受け内面に潜む精神性の深い美学のカラリストでした。

周知のとおりその功績に対し数々の栄誉を受けられ重責の職務の立場にも立派に務めておられました。

当クラブの一九九二～九三年度の会長も務められました。その間、記念事業のブロンズ像を先生とご縁の深い湘南学院正面玄関前に設置することが出来、喜びもひとしおだったと思います。又例会時、挨拶や講話はいぶし銀のような輝きでその話術に引き込まれ陶酔感に浸った会員の方々も少なくはありません。

私が先生のお宅に出入りしていた頃、先生の身近にいつも辞書があり種々な小動物を飼って観察しておられました。夕食後はいつも夜遅くまで家族共々雑談に耽っておりまして。昭和四十年代、思い返せば苦しくも楽しい時期でした。二人でよく繁華街をブラつき露地裏の狭い酒場で杯を酌み交わし更け行く夜の一時を過ごしました。先生は遠くに目をやりゆっくりとした口調でスペインで過ごした



日々のことを話されました。又「街が面白くない。死んでいる」と呟くこともあり「フタヅカ君、絵かきは何でも描けないとダメなんだよ」といつも私に言い聞かせるように話されました。言葉どおり後年は油彩画、水彩画、水墨画、ガラス絵、版画、パステル画、そして陶芸と多岐にわたりその才能を如何なく発揮されました。当クラブ美術作品展にも珠玉の小品が出品され手元におかれている会員の方々も多いと思います。

ロータリーではそう目立たなく振舞っておられました但し思慮深く奉仕活動されていたと思います。

文筆家としても異才でした。一九八八年出版『吉田富士夫画集・幻影劇場』の中に作者自身の証しが流麗な文体で書かれております。もし、皆様にも一読していただけるならば照れ笑いしながらも先生は喜ばれることでしょう。

永年家族の一員同様に可愛いがっていただき私の今ある人生の決定までもお世話くださった優しく慈悲深い先生のご冥福を心よりお祈り致します。

“ウイハヨ wihayoe ロータリー” No.4 渡邊 聰

「ロータリーの真の目標」

初期のロータリーは、会員相互間によるビジネス（商取引）からスタートしたので、商売を増やし金儲けの事のためにのみ入会した人も多くいた。これら商売だけを目的に入会した人達が扱う商品やサービスの質は悪く、会員の間でも評判が悪く問題となった。これが為にシカゴクラブでは“職業は社会に奉仕する手段である”として「商取引の方法のための委員会」を設置した。また、1910年、最初のロータリー大会がシカゴで開催されたとき、職業倫理の重要性が強調され、腐敗・不正の排除が云われた。以後「倫理的商取引の方法」として取り扱われていたが1927年（昭和2年）に職業奉仕と公式名称が付された。なお、ポール・ハリスの自伝“ロータリーへの私の道”では「ロータリーの会員は、その一人一人が、自分の職業とロータリーの理想を結ぶ環である」と述べている。

これからでも分かるとおりロータリーの真の目標は、先にも記したようにアメリカ社会の腐敗を排除し、モラルを高揚し、人と人との信頼感を深めることにより、社会秩序の回復と安定を目指したものだ。すなわち、相互信頼を活動の中心に掲げ、標的として始まったものと考えられる。そして、この“相互信頼”こそがロータリー創設の原点となり、職業奉仕やクラブ奉仕の活動指針とされ、社会奉仕、国際奉仕へと広がり、後の“ロータリーの綱領”につながって行ったものと解される。

なお、国際奉仕は1921年「奉仕の理想に結ばれた実業人と専門職業人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること」としてロータリーの綱領に取り入れられた。また、社会奉仕は成功した人間の心理の中に潜む何かを表現したいという気持。隣人への思い遣りや地域社会に役立つことを行いたいという気持。即ち、自分たちの狭い世界だけでのモラルや親睦や何かをだけでなく、地域社会の人々の為に何かを、という気持からスタートしたと解釈されている。1917年にロータリーと決別し、ライオンズクラブを創設して行った人達との奉仕に対する考え方の根本的な違いは、実にこの職業奉仕と社会奉仕の点にあったとされている。

その他、いろいろと上げられるが前述した僅かなことから、やはりロータリーの奉仕は倫理面からスタートしたことを伺い知ることができる。現在の日本国内の腐敗や企業と個人による多くの犯罪や悲惨な事件。且つ、世界で発生している犯罪や事件と紛争や騒乱などは、倫理の低下と信頼の欠如が招いた結果ではないだろうか。

現在のロータリークラブの組織の中の奉仕活動として、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕がある。これを総じてロータリーの四大奉仕とされており、その組織は時代の変遷とともに変転し、それぞれ専門分野毎の小委員会に細分化され、その活動は多岐にわたっていることはご存じの通りである。が、しかし、果たして個々のクラブで目論み通りの成果を挙げているかは大いに疑問のあるところである。

「難解なロータリー」

よくロータリーは難解だということを耳にするし、また、率直に云って理解しがたい点も多くあり、実感として難解だと思う。特に、その難解さは用語とロータリーの綱領にあると思う。綱領や用語の意味は感覚的には何となく理解できる。しかし、その難解さと不可解さは、実際の個々の活動の中に多く内蔵されていると感じる。用語では、先にも記したように“奉仕の理想”は、今もわからない一つであり、英語で言うサービスには本当に“奉仕”と訳してよいのであろうか、ニュアンスとして何となくしっくりしない。日本語の表現力の貧しさにも起因する部分であらうか。その他にも積然としない部分が多く有る。

なお、私が身近に感じるロータリー活動の中で優れていると思うものは、ポリオ・プラスや財団奨学金、あるいは米山奨学金などである。その他にも評価されるものは多く有るが、その存在感は程遠いものであり、今一つとの感じである。むしろ、ユニセフや赤十字社の活動の方が身近に見える感じがして馴染み易い。また、ロータリーの奉仕活動と称して各クラブの小委員会毎に行われる行事などの中にも、本当にこれが奉仕活動と言えるのであろうかと積然としない部分が多くある。また、RIにおいても、職業奉仕は難解であり、委員会が数十年間開催されなかった。このように、倫理面と実際の活動面でのことが複雑に重なりロータリーを難解にしていると感じるのは私一人だけであらうか。

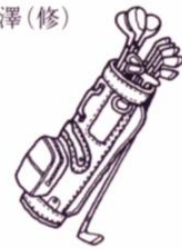


第58回ゴルフコンペ成績

平成13年5月29日(火)
金沢セントラルゴルフクラブ

	O	I	G	H	N
優勝 越田 和好	45	44	89	18	71
準優勝 駒栄 敏雄	41	45	86	10	76
第3位 安宅 雅夫	42	39	81	5	76
第4位 米澤 修一	48	45	93	16	77
第5位 松本 範夫	42	44	86	8	78
第10位 渡辺 修哉	41	52	93	10	83
B B 高畠 菊丸					

N.P 松本(2)、安宅、米澤(修)
D.C 渡辺、越田
B.G 安宅



ニコニコボックス

5月24日

金沢RC 松本初夫君

美味しいお料理をいただきに、久しぶりにメーカーキャップに参りました。又、樋口さんのお話を楽しみにしております。

本岡君、米澤(修)君、乙村君

講話に、NHK金沢放送局の樋口真氏をお迎えして。

乙村君

吉田富士夫先生のご逝去、誠に残念です。当クラブの大きな灯が一つ消えた気がします。心からご冥福お祈りします。5月20日(日)地区協議会多数ご出席皆様ご苦勞様でした。

松本君

銭亀会員が3度目の日展審査員に選ばれ、おめでとうございます。

合計 12,000円(累計 1,718,000円)

5月31日

加賀白山RC 河島 洋君

本日メーカーキャップさせていただきます。

金沢RC 横山英勝君

いつもメーカーキャップさせて頂き、美味しい料理で楽しませていただき感謝。

本岡君

講話に金沢政策フォーラム設立準備会代表・岡田直樹氏をお迎えして。

中田(龍)君

先日、菓子文化館で、長谷川壘人さんの作品展を開いて頂きました。お蔭様で、好評のうち終了する事が出来ました。感謝申し上げます。

魚住君

中田龍一さん、石川県菓子組合理事長の就任を祝して。

越田君

先日のゴルフコンペ、計らずも優勝しました。本人からの要請ですので、「パートナーに恵まれて」と申し上げておきます。

中谷君

結婚記念日を忘れていました。家内の催促で、山代へ旧婚旅行に行ってきた。46回目だそうです。

合計 14,000円(累計 1,732,000円)

第1356回例会

◆5月24日(木) 雨 12:30~13:30 松魚亭

1. 講話

NHK金沢放送局 放送部長 樋口 真氏
「IT時代に地方はどう生き残るか」

2. 出欠

出席 42名 欠席 32名 出席率 56.76%
ビジター 10名

3. 来訪者(敬称略)

金沢RC 松本初夫 坪内和人 高松 弘
織田義夫
金沢西RC 中村吉輝 長田伸夫 鈴木順栄
金沢南RC 野島耕之介 新保弾次
香林坊RC 大島千秋

2. 出欠

出欠 50名 欠席 24名 出席率 67.57%
ビジター 19名

3. 来訪者(敬称略)

加賀白山RC 河島 洋
金沢RC 北川晶夫 河野良三 岡 能久
佐藤 博 横山英勝 高松 弘
金沢東RC 浦田 進 田中孝司 紙谷 穰
金沢西RC 坂井美紀夫 荒川勝治
金沢南RC 竹山昭夫 湯沢邦夫 鏑 一郎
豊蔵一郎
香林坊RC 石村都喜雄
みたとRC 中谷宗紘 北尾強也

第1357回例会

◆5月31日(木) 雨 12:30~13:30 松魚亭

1. 講話

金沢政策フォーラム設立準備会
代表 岡田直樹氏
「金沢学 あれこれ」

5月クラブ日誌

10日(木) 5月定例理事会

松魚亭にて

18日(金) 次年度理事会

福よしにて

20日(日) 地区協議会

七尾にて

会 長：本岡三千郎 S A A：勝田 浩之
会長エレクト：合田 昌英 会 計：田中 廣明
副 会 長：佃 一成 広報委員長：銭亀 賢治
幹 事：畠 善昭 会 員 数：77名
副 幹 事：卯野 正博 クラブ設立：昭和48年10月3日

例会日：木曜日 12:30~13:30
例会場：松魚亭 金沢市東山1-38-30
TEL<076>252-2271 FAX252-2273
事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所内
TEL<076>222-2525 FAX224-2882



この会報は再生紙を利用しています。